

小児神経外科学会参会記

佐賀大学医学部 6 年

野村 理沙

今回私は、第 53 回日本小児神経外科学会に参加し、ポスターセッションで発表するという貴重な機会をいただきました。学生として初めての学会発表で不安もありましたが、担当教員の先生に丁寧にご指導いただき、準備を進めることができました。

私の発表のテーマは「逆行性広背筋皮弁を用いて再建した高度後弯を伴う脊髄髄膜瘤の一例」でした。教科書や過去の症例報告を参照し、脊髄髄膜瘤の発生機序や所見、治療方針について学びました。その過程で、本症例の特徴は高度後弯を伴っていたこと、さらに皮膚欠損の閉鎖に筋皮弁を用いた点であるということが理解できました。皮膚欠損の再建方法は数多く報告されているため、文献をいろいろと調べ、利点や注意点を学んでポスター作成に臨みました。

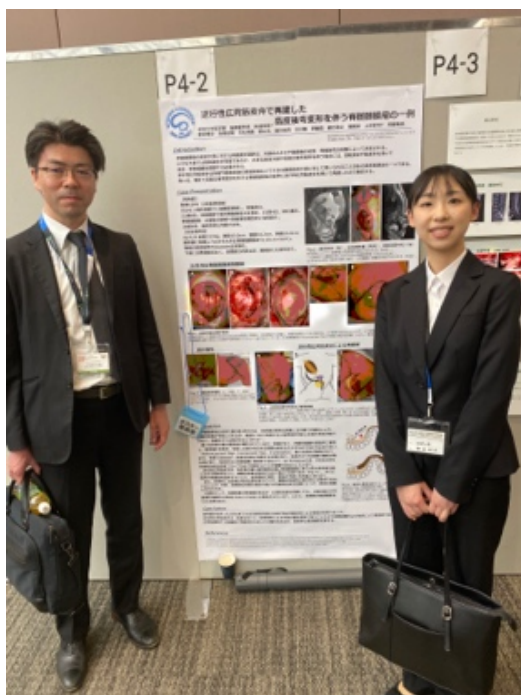
当日は、専門の先生方の前で発表すること、ポスター発表で聴衆との距離が近いことから大変緊張しましたが、練習の成果もあり、無事に終えることができました。質疑応答では難しい質問もありましたが、共同演者の先生にご助言いただき、大変勉強になりました。

学会中は自分の発表以外にも多くの発表を聴講しました。特に二分脊椎のセッションは、自分の発表症例と重なる部分も多く、理解が深まりました。学生としては疾患の原因や治療法に注目しがちですが、実際の診療では移行期から成人期までを見据えた診療や、ご家族を含めた密なコミュニケーションが重要であることを学びました。また、先生方による活発な質疑応答や経験に基づくコメントから、希少疾患領域では情報共有と協力が特に大切にされていることを実感しました。

今回の学会参加は、脳神経外科の先生に私が小児科と脳神経外科に興味があるとお伝えしたことがきっかけで、発表の機会をいただきました。緊張の連続ではありましたが、多くの

先生方や他大学の学生と交流できたことは大きな刺激となり、将来この領域に携わりたいという思いが芽生えました。また、学会には多くの女性医師の先生方も参加されており、直接お話しする機会をいただけたことも大変励みになりました。

この度は学会参加の機会をいただき、誠にありがとうございました。学生のうちから学会の雰囲気を実際に感じる事ができたことは、今後の医師人生にとって貴重な経験になると感じています。ご指導いただいた先生方に心より御礼申し上げます。



ポスター発表後に指導教官の吉岡先生（左）と記念撮影